

変わる新宿映画の歌に

文人の 武蔵野

1929年(昭和4年)、購読者130万を誇る雑誌キングに連載中だった菊池寛の小説「東京行進曲」を溝口健二が映画化した「東京行進曲」が5月31日に封切られます。

小説が完結する前に映画を製作、公開した日活は、テーマソング「東京行進曲」を作り、封切り前の4月に「キネマ旬報」誌上で西條八十の歌詞を公表。中山晋平のメロデーにのせて佐藤千夜子が歌

東京行進曲 ①

読売新聞に掲載された東京行進曲の記事(1929年)



うレコードを5月にビクターから発売し、9月に売り切ります。映画はヒットし、主題歌先行型映画の先駆けとなり

ました。無声映画だった「東京行進曲」の上映時には、レコードで主題歌を流し、歌詞とそれに合わせた街景をスクリーンに映しました。

歌の1番では艶のある銀座が、2番ではサラリーマンの丸の内が、3番では忍ぶ恋の舞台で粋な浅草が、4番では「あの武蔵野の月」の下で変貌する新宿が点描されます。文芸評論家の磯田光一は、この時初めて「新宿」が歌謡曲の歌詞に登場したと述べています。新宿は、シネマと喫茶店とデパートの街になりました。「いっそ小田急で逃げましょか」と誘ったのできる、武蔵野の玄関口としてのイメージを後世に印象付けた歌でもありました。

の内容も映画の内容も参照せず、「首都人の生活」を詩人の目で俯瞰し「ジャズ的風刺詩」を詠んだのだといえます。詩としての歌詞は人々の心を掴み、菊池寛や北原白秋をはじめとする文学者たちにも影響を与えました。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「東京行進曲の時代」

関東大震災後の復興から戦時下へ、敗戦から占領下へ、東京オリンピックから高度経済成長期を経てバブルの臨界に至るまで、64年続いた「昭和」は、武蔵野が関東の西へと移動する時代でもありました。その開幕を「東京行進曲の時代」と位置づけた「証言の昭和史1」をおすすめします。



(学習研究社)

武蔵野

本社 江東
立川 武蔵野

武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.com
都内版編集室
電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette
03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

5月13日(木曜日)
旧 4月2日<大安>

通日 133
月齢 1.3
(正午)



東京標準
満潮 5.06
18.24
干潮 11.52
(大潮)

あすの暦
日出 4.38
日入 18.37
月出 5.26
月入 19.59